

の細君の方から初める事にする。

俺は精神病者でない筈がない。おとゝひも神奈川縣の田舎で拘留を食つた。

郷里の警察では廿一日間檻禁されてゐたのだ。

誇大妄想經と云ふお經を、未來に發表する事があるかも知れんが、俺がシャクソン氏の顛瘤の話しをするのも、何もキサマ達に今、俺の精神病の重症である事を知らしたい爲でもない。

だからアインシュタインの細君の寫眞を俺は見た丈なんだ。

あんな無細工な女房を、態々日本まで運れて來るアインシュタインの野郎も、イエス・キリストにおとらない色情狂だと俺は思ふ』

聽衆はガヤガヤ騒ぎ出した。

新吉はベラボーに妙チキリンな聲を出す。

『所でアインシュタインの野郎の講演を、俺は神田の青年會館の窓硝子から覗いて見た事がある。

アインシュタインと云ふのはみなさんも御承知の通り、ユダヤ系のドイツ人で、戦後の困憊した同胞の悲惨を見棄てゝ、獨逸の一ダマイストの短刀で、胸を刺されるのが恐くて、日本まで逃